

(2) 東北



東北地域では、景気は持ち直しの動きがみられる。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

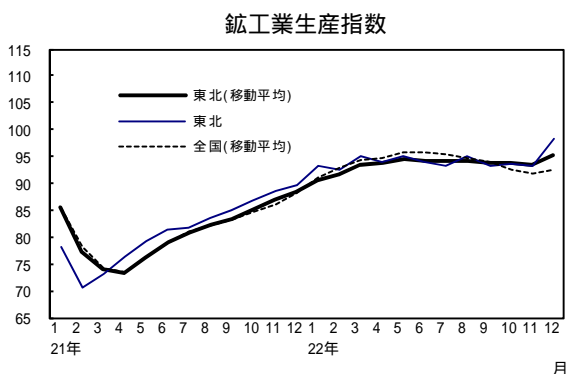
前回調査からの主要変更点

	前回(平成22年11月)	今回(平成23年2月)	
景況判断	足踏み状態となっている	持ち直しの動き	
鉱工業生産	おおむね横ばい	緩やかに持ち直している	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。

電子部品・デバイス、モス型半導体集積回路などについて海外への輸出が好調であることから、上昇している。食料品・たばこは、たばこ増税に伴う需要の低下により、減少している。一般機械は、パソコン用メモリー需要が弱含んだことが影響し、減少している。情報通信機械は、一部パソコンOSを搭載したPCの生産が10月好調だった反動により、11~12月に影響したことから、減少している。化学は、サランラップ原材料などの生産が減少している。



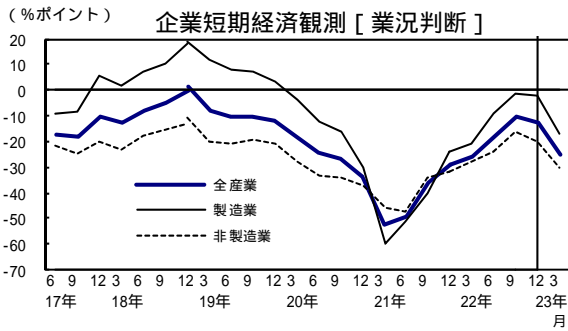
(備考) 1. 17年=100、季節調整値。東北の最新月は速報値。
2. 全国及び東北の太線は後方3か月移動平均。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

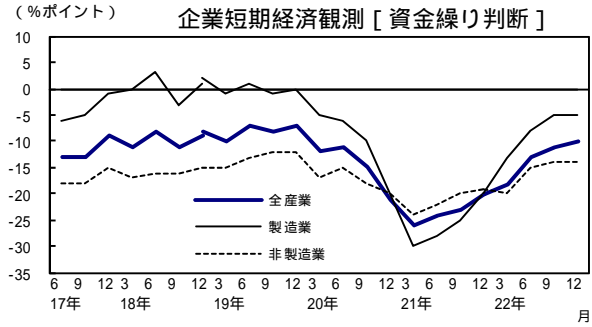
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7~9 月期	10~12 月期	10~12 月期	10~12 月期
電子部品・デバイス	17.9	3.2	11.9	15.4	2.5
食料品・たばこ	11.8	2.3	4.4	7.6	8.1
一般機械	10.1	8.6	7.3	9.7	36.1
情報通信機械	9.6	0.1	5.7	0.1	36.0
化学	7.0	8.9	1.2	2.0	2.7
鉱工業	100.0	0.4	1.4	2.1	8.2

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。
2. 10~12月期は速報値。

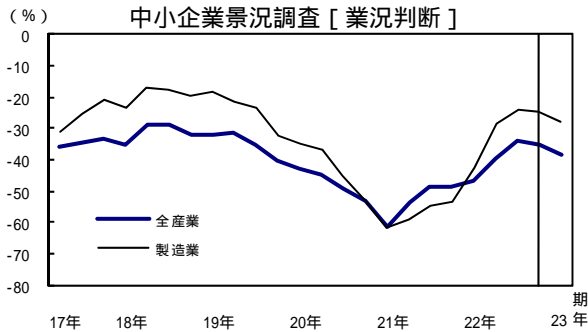
(2) 業況判断は「悪い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が横ばいとなっている。
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。23年3月は予測。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。23年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(1月)[企業動向関連(現状)]

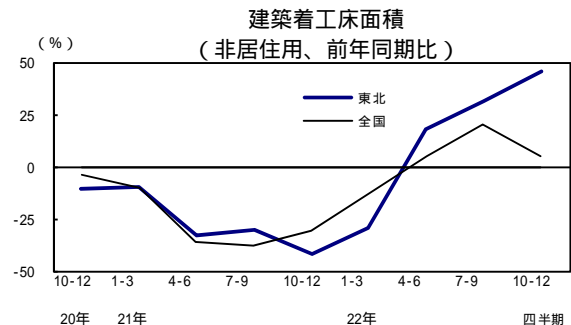
「取引先の生産状況については、原材料の入荷状況や製品の出荷状況、従業員の話からも、まずまずの状態が横ばいとなっている(その他企業[工場施設管理])」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 22年度の設備投資は前年度を大幅に下回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(12月調査)]

	(前年度比、%)	
	21年度実績	22年度計画
全産業	25.8	12.5 (0.8)
製造業	31.3	13.5 (5.3)
非製造業	14.1	10.7 (12.6)

(備考)()は前回(9月)調査比修正率。



(2) 東北

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直している。

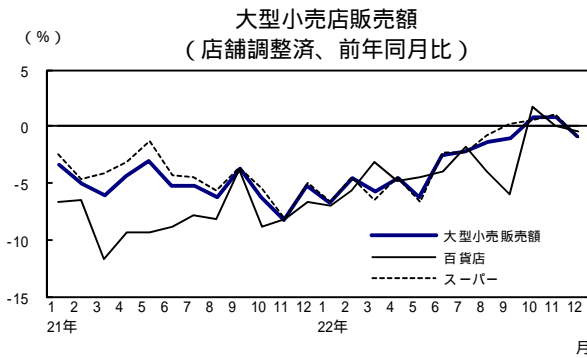
大型小売店販売額

百貨店は、10月は、生鮮食料品がよく動いたほか、総菜や菓子が好調で前年を上回った。11月は、家庭用品は食器やキッチン用品が好調で前年を上回った。12月は、コートなど冬物衣料が好調だったものの、全体的に伸びず前年比で減少に転じた。なお、日本百貨店協会によると、東北地区の1月の売上は前年同月比で6.8%減となっている。

スーパーは、野菜の相場高の影響や総菜等が好調だったことに加え、薄型テレビ等が好調だったことから、前年を上回った。

景気ウォッチャー調査(1月)[家計動向関連(現状)]

「初売りやクリアランスといった購買を喚起するような仕掛けに対する反応は大変良いものの、日常においてはいまだに節約志向が続いており、景気はまだ上向いていない(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

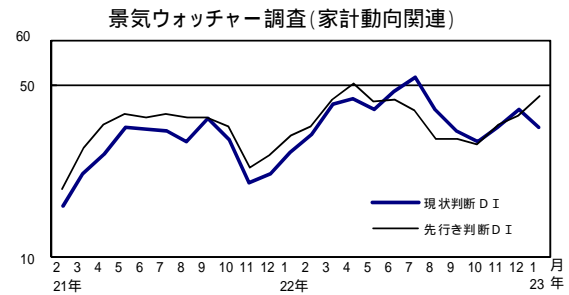
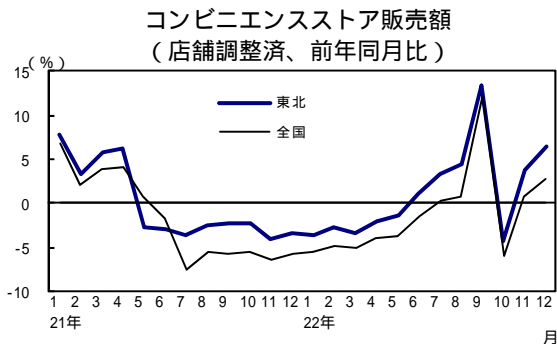


	(前年同期比、%)			
	22年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店	5.8	4.5	1.5	0.2
百貨店	5.3	4.5	3.7	0.3
スーパー	5.9	4.5	1.0	0.2
乗用車	21.5	23.0	9.5	26.3
景気ウォッチャー	39.4	46.5	45.1	40.4

(備考) 1. 大型小売店は店舗調整済。

2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。

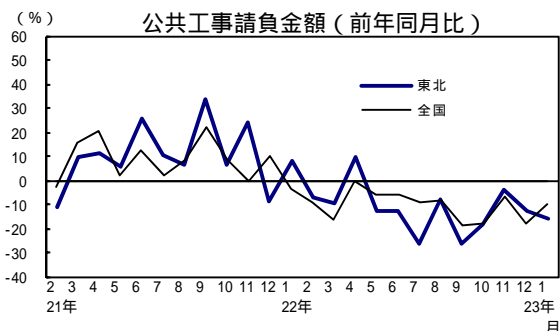
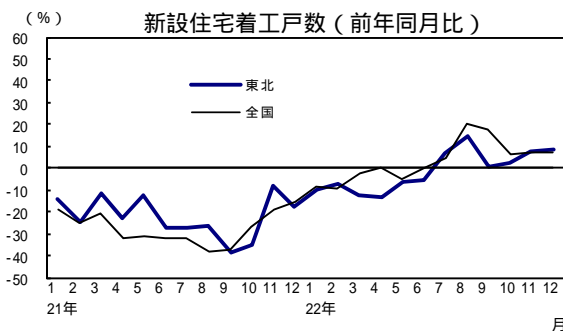
3. 乗用車は乗用車新規登録・届出台数。



(2) 住宅建設は増加している。

持家、分譲が前年を上回ったことから、増加している。

(3) 公共投資は22年度累計で見ると前年度を下回っている。

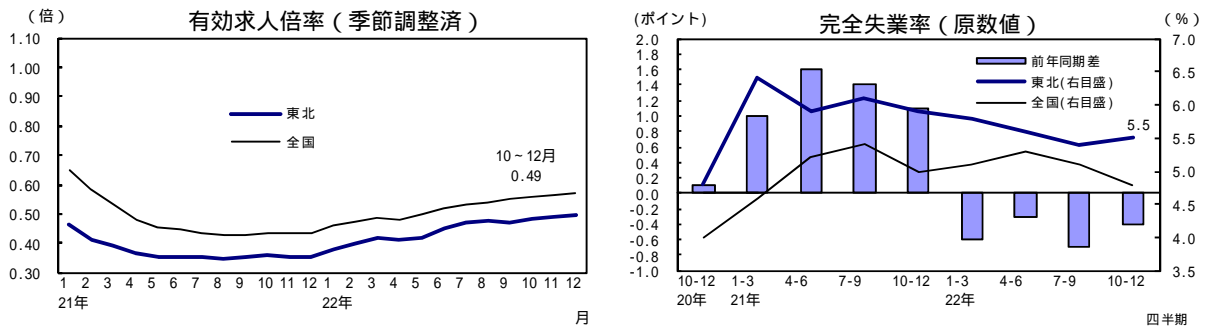


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (1月)[雇用関連(現状)]

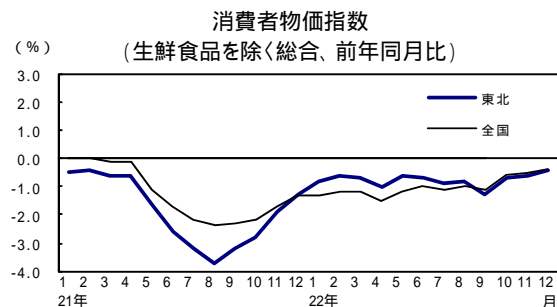
「消費者物価の連続の低下、及びデフレの長期化が企業の収益や雇用を圧迫している。また、市内の目抜き商店街は専門店が消え、代わりに居酒屋チェーンやファストフード店が急増しているため、地元経済への波及効果が少なくなっている(新聞社[求人広告])」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は減少しているものの、負債総額は増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	22年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	23年1月
倒産件数	184	180	181	194	47
(前年比)	23.0	22.1	10.4	4.0	11.3
負債総額	414	398	545	583	86
(前年比)	43.9	48.7	89.3	30.3	23.9



景気ウォッチャー調査 (1月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・初売りでの売上が前年比10%程度増加したが、20~30代の客の来店が増加したことにある(衣料品専門店)

<先行き>

・中小企業は価格競争で太刀打ちできない状況下であり、生き残りのため必死で頑張っているものの、地方ではいまだに景気回復の兆しが見えてこない(衣料品専門店)

